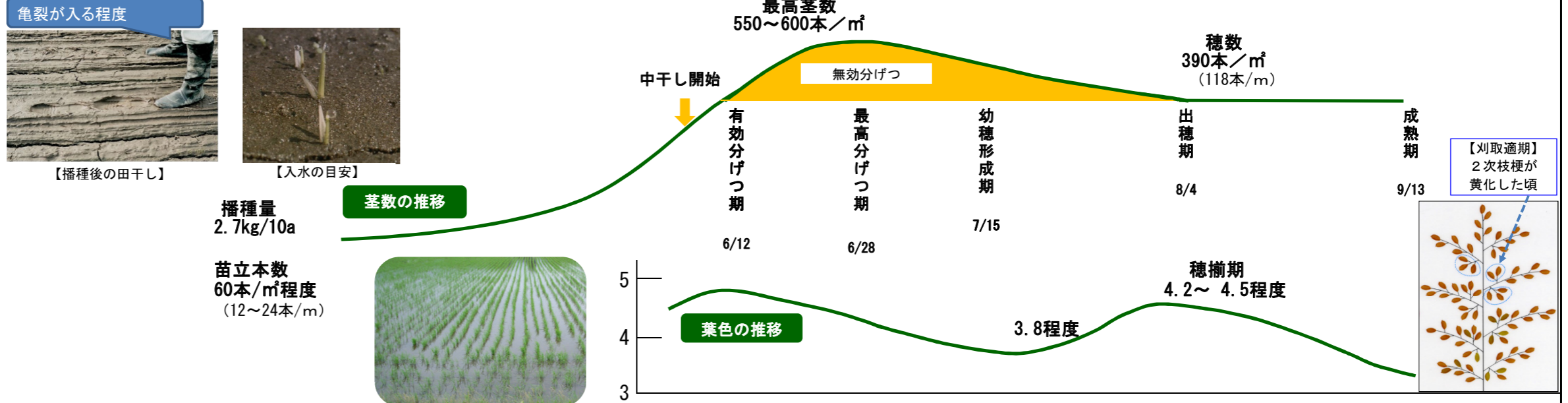


令和7年産コシヒカリ湛水土中直播（カルパー）栽培こよみ

●射水市農業技術者協議会
●射水市 ●JAいみず野
●富山県高岡農林振興センター
●高岡地域農業共済センター
●全農とやま

重点技術対策

- 1 出芽・苗立の確保**
苗立本数：60本/m²程度
(12~24本/m)
○圃場の均平化
○適正な播種量による苗立確保
播種量：2.7kg/10a
○播種深度の確保：5~10mm
○播種後の田干しの徹底
(5~7日程度)
○田干し後の浅水管理
(播種後7日後から入水する)
- 2 適正な葉色への誘導**
○適正基肥量
LPss直播コシヒカリ
粘質土：27kg/10a
壤質・砂質土：30kg/10a
○適期の中干し
6月上旬から開始
- 3 病害虫防除**
○穂もち・カメムシ類等の防除
(8月上旬)
- 4 稲体の活力維持**
○幼穂形成期から出穂までの飽水管理
○出穂後20日間の湛水管理



月	3月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月
旬		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育期					播種期	出芽・苗立期		有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期		登熟期							
作業体系		荒代	代かき	播種	播種後の田干し	浅水管理		溝掘り	中干し	間断かん水	飽水管理	湛水管理	間断かん水	刈取り						
水管理				田干し 5~7日間程度	初期除草剤散布	散布後 7日間は落水しない	(暖かい日に芽干しする)				(足跡の水が切れぬように)	出穂後20日間	(落水を急がないように)							

栽培管理のポイント

- 圃場の均平**
 - 前年と同品種または転作あと田とする
 - 直播栽培する圃場は、漏生籾による異品種の混入を防ぐため圃場選定
- 代かき作業**
 - 荒代後は浅水で湛水し、雑草の発芽を促すため、耕起前に高低差をなくす
 - 圃場の均平が出芽揃いや除草管理等に大きく影響する
- 播種作業**
 - 加温処理した種子は、1日以内で播種する
 - 種子の加温処理：JAにて加温処理済み
 - 少ない水で代かきし、均平に努め、練りすぎに注意する
 - 播種の3~4日前に代かきを行う
- 播種後5~7日間の田干しの徹底**
 - 圃場全体を均一に干すため、播種後早めに溝を掘り、落水する
 - 種子および肥料が落下しているか必ず確認する
 - 生育量を確保するため、播種は4月25日~5月10日に行う
- 除草剤散布**
 - ※防除こよみを参照
 - 雑草の出揃い、スジ状になったら入水する
 - 圃場全体に亀裂が入るまで、田干しする
- 浅水管理の徹底**
 - 雑草の発生状況に応じて、中期除草剤を散布する
 - 浅水管理で早期に茎数を確保する
- 中干し**
 - 中干し後は間断かん水を行う
 - 6月上旬まで遅れずに中干しを開始する
 - 6月上旬までに溝掘りを行う
- 飽水管理**
 - 幼穂形成期以降は飽水管理により稲体の活力を維持する
 - 生育に応じた追肥
 - 出穂7日前の葉色が4.0以下(砂壤土4.2以下)の圃場は、出穂3日前までに追肥する
- 基本防除**
 - カメムシが多発した場合は3回目の防除を行う。
 - 2回目：1回目の7日後 ラブサイドK2フロアブル
 - 1回目：出穂直前 ビームエイトスタークルゾル
- 出穂後20日間の湛水管理**
 - 湛水管理で登熟向上を図る
 - 刈取りの1週間前まで間断かん水する
- 適期刈取り**
 - 黄化率85~90%程度まで十分登熟させて刈り取る
- 秋耕し・土壌改良資材の散布**
 - 土壌分析結果に基づき、土づくりを行う



収量構成の目標

項目	目標
m ² 当たり 穂数 (本)	390
一穂粒数 (粒)	70
m ² 当たり 着粒数 (百粒)	273
登熟歩合 (%)	85
玄米千粒重 (g)	22.0
収量 (kg/10a)	510